



教育総合サイト

中日新聞が運営する中部地区の大学情報サイト
 地元の大学を探すなら、**地元の進学サイトで。**
 スマホでも思い立ったらすぐ検索!

【国際】

米追従路線にNO カナダ自由党圧勝で政権交代へ

 78

 2

 28

 2

2015年10月21日 朝刊

環太平洋連携協定(TPP)が大筋合意してから、初の本格的な国政選挙となったカナダの下院総選挙で十九日、親米タカ派路線を突き進み、TPPを推進した与党保守党が大敗を喫した。一方、大きく躍進し、約十年ぶりに政権を奪還するのは若きリーダー、トルドー党首(43)率いる中道左派の野党自由党だ。トルドー氏はハーバー政権の親米タカ派路線の見直しを図るとみられ、カナダの政治は転換点を迎えることになる。(アメリカ総局・斉場保伸)

選挙管理委員会によると、自由党は単独過半数の百八十四議席を獲得し、圧勝。保守党は九十九、最大野党だった新民党は四十四と、両党とも議席を大幅に減らした。

「今夜歴史をつくったのは私ではない。あなたたちだ」。米CNNテレビは二十日、オタワに集まった満場の支援者を前にトルドー氏が勝利宣言する姿を映し出した。USAトゥデー紙によると、選挙戦で保守党候補を破った自由党のオリガン氏は十九日、「有権者が真の変革を望んでいたことはもはや疑いがない」と、大勝利を評価した。

トルドー氏は選挙戦の間、「オバマ政権との関係を修正する。カナダはイスラム国(IS)との軍事的な戦いから手を引き、人道支援や訓練、環境問題に力を入れる」と述べ、ISと戦う有志国連合のあり方にも言及してきた。

米国と長い国境を接するカナダはいや応なしに巨大な政治・経済・軍事力を持つ米国の影響を受ける。ハーバー政権は親米路線を貫き、米野党・共和党のような福祉よりも競争を重視するタカ派的な「小さな政府」を志向してきた。

米国のブッシュ前政権時代、カナダの自由党政権はイラク戦争に反対したり、ミサイル防衛(MD)への不参加を表明したりしたこと、伝統的に緊密だった両国関係はぎくしゃくした。二〇〇六年に発足したハーバー政権は、関係修復を進め、米国と協調することで存在感を発揮してきた。

米主導で進められたTPPへの参加もその一つ。だが、詳細な合意内容については選挙前には明らかにされず、秘密主義と批判を浴びていた。トルドー氏は基本的にはTPPを支持するとしているが、「カナダ経済への影響を見極めるためにすべての条文を開示してほしい」と、慎重に精査する考えを示している。

このため、TPPについても批准までには曲折もあり得る。TPPを含め、圧勝したトルドー氏がハーバー政権時代の米国追従の政策をどのように見直すのが注目される。


[この記事印刷する](#)

PR情報

世界のセレブも魅了！絶品とろける濃厚ガトーショコラ【47CLUB】
 全国の逸品をお取り寄せ！47CLUB(よんななクラブ)

最新記事

[記事一覧](#)

米副大統領、大統領選出馬を断念 クリントン氏に追い風(10月22日 夕刊)
 中英首脳、7兆円契約 貿易や1.1兆円原発投資(10月22日 夕刊)
 SFの世界は実現? 「バック・トゥ・ザ・フューチャー2」(10月22日 朝刊) 
 アサド大統領、ロシアを電撃訪問 シリア内戦後初、欧米けん制(10月22日 朝刊)
 中国、英原発に1.1兆円出資 安保直結に懸念も(10月22日 朝刊)

温室効果ガス2040年に上限 気温上昇2度未満は困難(10月21日 夕刊)
 習主席演説 中英関係の強化強調 人権問題で抗議も(10月21日 夕刊)
 米口、シリア領空の衝突回避で覚書(10月21日 夕刊)
 米追従路線にNO カナダ自由党圧勝で政権交代へ(10月21日 朝刊)
 中国に「2020年問題」 労働力、結婚、介護で一人っ子政策影響(10月21日 朝刊)